様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３８６

研究課題名（和文）１８世紀中葉におけるライプツィヒ派の演劇改革とザクセン喜劇の生成および受容

研究課題名（英文）The theatre reform of the Leipzig school and production and reception of the Saxon comedies in the middle of the 18th century

研究代表者
小林　英起子（KOBAYASHI, EKIKO）

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：６０５７１０６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,200,000円、（間接経費）　360,000円

研究成果の概要（和文）：　18世紀中葉のドイツのライプツィヒは先進的な啓蒙文化都市であり、豊かな演劇文化が栄えた。ゴットシェート教授を理論的な柱とするライプツィヒ派の劇作家らは、法学生、医学生、官吏、翻訳家等の知識層である。彼らはハルレキーン役を廃止して、偏った性癖を持つ類型化した人物を諷刺的に描き、良徳を称える一方、悪徳を戒める類型諷刺喜劇の創作を得意としていた。
　カロリーネ・ノイバーの劇団は、当初ゴットシェートの演劇改革に与していたが、自らも喜劇の脚本を書き、倒産を経てハルレキーン役を復活させ、1740年代には独自に演劇改良を進めた。仏英の劇に加え、ライプツィヒ派のザクセン喜劇の上演と受容に大きく貢献した。

研究成果の概要（英文）：Saxon comedies in the Enlightenment age have not yet been so well studied. The theatre reform of the Leipzig school is clarified and those comedies and reception are analyzed in their historical context.
　The Saxon dramatists following Gottsched were, law- and medical students, government officers, translators etc.: Quistorp, Mylius, Krueger, Frau Gottsched, who describe characters in their occupations satirically without harlequin figures. Clever servants play important roles. Influences on the Saxon comedies from Moliere and commedia dell'arte can be clearly observed. In the stereotyped comedies the virtue of persons is praised but the vice is revealed and admonished. The extreme characters express the weakness of human beings. "Die ungleiche Heirath" by Frau Gottsched was the most popular play.
　Caroline Neuber contributed to this reform at first, but revived harlequin after bankruptcy. "Die Schaferfeste oder die Herbstfreude" had been the highlight presented for Maria Teresia.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：ザクセン喜劇　類型諷刺喜劇　演劇改革とハルレキーン　カロリーネ・ノイバー　ゴットシェートの喜劇理論　テオドール・ヨハン・クヴィストルプ　ゴットシェート夫人　ゴットホルト・エフライム・レッシング

１．研究開始当初の背景

18 世紀のドイツ啓蒙主義期の文芸研究は、レッシングの代表的戯曲に研究が集まり、周辺作家の作品にはあまり研究の手が及ばない傾向があった。レッシングが過ごした 18 世紀中葉のライプツィヒには、多様な文化が集まり、創作と出版活動が活発であった。ドイツにおける小パリとも言われて賑わいを見せたライプツィヒは、商業の中心であり、大学の街であった。若いレッシングを惹きつけてやまなかったライプツィヒにおける演劇文化の輝きはどのようなものであったのか、喜劇の時代とも呼ばれる程、劇作家によって喜劇が相次いで創作された文化について解明したいと思ったことが、今回の研究課題に取り組んだ背景である。

２．研究の目的

18 世紀中葉のザクセン喜劇は、その多彩さと豊かな諷刺性にもかかわらず、まだあまり研究されていない演劇史における重要な分野である。本研究は啓蒙文化都市ライプツィヒにおける演劇改革とザクセン喜劇の生成と受容を解明しようとするものである。

『ドイツ戯曲集』(1741-45)に収められたゴットシェート夫人、クヴィストルプ、クリューガーらの喜劇の他に、ノイバー夫人、初期レッシング等の喜劇も含めて作品分析をしたい。喜劇生成の背景とゴットシェートを囲む文学サロンの素顔、ひいては諷刺の現代性、当時の市民生活と道徳観、文明観等を明らかにしたい。

３．研究の方法

ライプツィヒ派の演劇改革の全体像を解明し、ザクセン喜劇の成立と受容を明らかにするために、以下の研究方法をとった。

① ライプツィヒのゴットシェートとスイスのブライティンガーの文芸論、特に喜劇論の比較

ドイツ語浄化や演劇改良の目的でゴットシェートが書いた『批判的詩学の試み』(1730)やいくつかの文芸論と、スイスのブライティンガーの『批判的詩学』(1740)における喜劇論を比較して、ゴットシェート論の特性を浮き彫りにしたい。

② 『ドイツ戯曲集』に収められているゴットシェート夫人、クヴィストルプ、クリューガー等のザクセン喜劇の成立とテキストの分析および現代性についての考察

ゴットシェート編『ドイツ戯曲集』(1741-45)に収められている、クヴィストルプ作『牡蠣』(1743)、『山羊裁判』(1744)、『心気症の男』(1745)、ゴットシェート夫人作『身分違いの結婚』(1743)、『フランス女家庭教師』(1744)、『遺言状』(1745)、クリューガー作『候補者あるいは官吏に至る手段』等を研究の対象とする。何が諷刺の対象となり、どのような道徳性を導くために創作されたのかを分析する。ザクセン喜劇の多彩な作者達のプロフィールやゴットシェートを囲む文学サロンの姿を明らかにしたい。これら類型諷刺喜劇を解析することで、行き過ぎた人間の姿や弱点が持つ意味を考察し、現代人の価値観と弱点とも比較し、普遍的な人間の姿を読み取りたい。

③ カロリーネ・ノイバー劇団の活動と上演レパートリーの分析、俳優達の系譜の調査

演劇改革に共鳴したカロリーネ・ノイバーとその劇団の活動、当時の上演レパートリーの実際を伝記や上演冊子、演劇雑誌を手掛かりにして調査する。ノイバー夫人作『ドイツの序幕』(1734)や『演劇術』、『羊飼いの祝祭あるいは秋の喜び』(1753)を解析する。

④ 初期レッシングのザクセン喜劇における諷刺の構造についての分析

レッシング初期の喜劇のうち、『若い学者』(1747)、『女嫌い』(1748)、『老嬢』(1748)の 3 作にはザクセン喜劇の影響がどの程度色濃く見られるか分析する。

⑤ ザクセン喜劇と同時代のボルケンシュタインやヴァイセ等、他のドイツ喜劇との比較

ザクセン喜劇の諷刺の意味を確かめるために、C.F.ヴァイセ作『尺には尺を』や C.F.ゲラート作『優しい姉妹』(1745)等と比較する。それにより、ザクセン喜劇が類型喜劇と呼ばれるゆえんや、ドイツ演劇史において果たした役割を明らかにしたい。

４．研究成果

2011 年度は、ゴットシェートの『分別あるこごと好きの人々』(1725-26)や『批判的詩学の試み』(1730)における喜劇論を調べ、喜劇にも道徳的規範性や浄化作用が求められていることが理論の要になっていることをつかんだ。クヴィストルプ作『山羊裁判』とゴットシェート夫人作『遺言状』を例に、「裁き」の問題がいかに諷刺的に描写されているか分析した。『山羊裁判』では判事が家庭法

廷で知識を振りかざし、自らを権威づけて見せる独りよがりに喜劇性がある。ゴットシェート夫人の喜劇では、放蕩や高慢、政略結婚が戒められ、献身的愛情、奉仕が良徳となる。両喜劇とも、怪しいラテン語の台詞によって権威付けをするコメディア・デラルテやモリエールの影響が見られる。

クヴィストルプ作『心気症の男』、ゴットシェート夫人作『身分違いの結婚』、『フランス女家庭教師』、ゲラート作『病妻』等におけるヒポコンドリー描写の諸相と、喜劇に反映した医学的知識を明らかにした。迷信と科学や理性万能主義の間で、不安定な精神状態やヒポコンドリーになる人が相当いたことを、論文「ザクセン喜劇におけるヒポコンドリーの諸相と医学」(2011)にまとめた。

2011 年 8 月、ドイツで文献調査をし、特にライプツィヒやライヒェンバッハでの現地調査では、ザクセン喜劇やノイバー夫人ゆかりの場所を探索した。歴史博物館を見学し、サロン文化の様子を探究した。

ライプツィヒ派の演劇改革によってザクセン喜劇ではハルレキーン役が消滅し、初期レッシング喜劇では召使リゼッテがその代わりを務め、クヴィストルプ喜劇ではラテン語を理解する賢い下僕が描かれている。コメディア・デラルテの影響を残しつつ、下僕が喜劇性と理性も担う役に変化することを 2012 年 3 月口頭発表し、論文„Botschaft der Komik oder Uebermittelung von Vernunft? - Zu Dienerfiguren in fruehaufklaererischen Komoedien“（日本独文学会ドイツ文化ゼミナール記録論文集 2014 年投稿中）にまとめた。

2012 年度はザクセン喜劇の受容の諸相とその時代の代表的劇団ノイバー座の活動についての調査をし、収集した資料を読破、解析することに重点を置いた。8 月 19 日～8 月 24 日、ドイツのヴォルフェンビュッテルとライプツィヒ、カーメンツおよびケルンにおいて現地調査と文献収集を行った。演劇史の史料をひも解き、当時の文学新聞のマイクロフィッチも閲覧し、複写をした。レッシング博物館では初期レッシングの喜劇とノイバー座との関連やその一座の移動劇団としての活動について示唆を受けた。

8 月 19 日にはノルトライン・ヴェストファーレン州のデューレン=ユーリッヒ・クラブ主催の「文学の夕べ」で、„Rezeption der deutschen Literatur in Japan/ Teil II -Heilkunde der “Hypochondrie”in der saechsischen Komoedie“の演題で講演をした。ドイツ人の聴衆からは興味を持って聞いてもらうことができ、非常にたくさんの質問を受けた。

啓蒙の喜劇の作者の中には寓話も好んで書く作家がいたことに注目し、論文「啓蒙の動物寓話における擬人化（2）－ G.E.レッシングの『寓話』と翻訳による S.リチャードソン作『イソップ寓話』との比較考察」(2012)を発表した。また、論文„Ein fremdes Bild fuer Freundschaft bei C.F.Weisse: Die „edle Wildin“ in „Die Freundschaft auf der Probe“(2012)が、アジア・ゲルマニスト会議論文集 „Transkulturalitaet“に掲載された。

最終年度の 2013 年にはレーデン=エスベック著のノイバー夫人に関する伝記や一座の興行記録を調べ、演劇改革の推移を年表にまとめた。ノイバー夫人による『ドイツの序幕』(1734)と演劇綱領、代表作『羊飼いの祝祭あるいは秋の喜び』(1753)を解析し、演劇人としてのノイバー夫人の活躍を明らかにした。5 月、口頭発表「ノイバー座の演劇改革とザクセン喜劇の受容をめぐって」を日本独文学会で行なった。6 月、「宮廷喜劇俳優カロリーネ・ノイバーの演劇改革の試みと演劇綱領―『ドイツの序幕』を中心に」と題して、一座のライプツィヒでの興行内容と各地を旅回りする移動劇団としての活動、ハルレキーンを巡る対立、若手俳優育成の功績を日本演劇学会で発表した。11 月には、ライプツィヒ派の若手劇作家テオドール・ヨハン・クヴィストルプの喜劇における下僕役の変遷と喜劇性について日本独文学会北陸支部にて発表した。クヴィストルプの最初の小喜劇『牡蠣』(1743)には、ハルレキーンの名残ともいえる下僕が学生に仕えているが、苦手な仕事を避けて逃げ回り、主人を罵って途中で去っていく。もう一人の給仕役がそれに取って変わるように登場し、喜劇性とストーリーを牽引している。

7 月には、広島市立舟入高等学校アカシアホールにおいて 2 学年の高校生を対象にして「ドイツ啓蒙の時代とレッシングの演劇」と題する講演を行なった。

これら研究成果の一部は、論文「宮廷喜劇俳優カロリーネ・ノイバーの演劇改革の試みと演劇綱領　―『ドイツの序幕』を中心に」（日本演劇学会編『演劇学論集』第 58 号、2014、印刷中）にまとめた。クリューガー作『候補者あるいは官吏に至る手段』や、ザクセン喜劇の対照となるゲラート作『優しい姉妹』とヴァイセ作『尺には尺を』はまだ解析中である。さらに、ザクセン喜劇を含むドイツ啓蒙喜劇におけるハルレキーン役の変遷と現代における意味については、2014 年 7 月 19 日、西洋比較演劇研究会のシンポジウム「18 世紀ヨーロッパにおけるアルレッキーノの変容」の場で、安田比呂志（イギリス演劇）、奥香織（フランス演劇）と共に研究発

表をすることになっている。
　この研究をきっかけにして、今後はドイツ語圏演劇におけるザクセン喜劇のすそ野の広がりを確かめてみたい。また、本研究全体の成果を著書にするために準備中であり、近いうちに翻訳にして一般の人々にも魅力を紹介しようと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

① 小林英起子,
「宮廷喜劇女優カロリーネ・ノイバーの演劇改革の試みと演劇綱領　―『ドイツの序幕』を中心に」, 日本演劇学会論集, 査読有, 58 号, 2014,（印刷中）
DOI: なし

② Kobayashi Ekiko,
Personifikation in den Fabeln der Aufklaerung - Eine vergleichende Betrachtung zwischen Lessing und Richardson. In: Beitraege der Asiatischen Germanistentagung Beijing 2012. 査読有, 2014,（掲載決定）
DOI: なし

③ Kobayashi Ekiko,
Vom Gebrauch der Tiere: Ein Vergleich zwischen den Tierfiguren in Lessings „Fabeln“ und in der japanischen „Isoho-Erzaehlung“. In: Akten des XII. Internationalen Germanistenkongresses Warschau 2010. Vielheit und Einheit der Germanistik weltweit. Franciszek Grucza (Hg.) Frankfurt am Main: Peter Lang, 査読有, 2013, pp.43-47.
DOI: なし

④ 小林英起子,
「啓蒙の動物寓話における擬人法 (2) - G.E.レッシングの『寓話』と翻訳によるS.リチャードソン作『イソップ寓話』との比較考察」, 広島大学大学院文学研究科論集, 査読無, 72 巻, 2012, pp.75-88.
DOI: なし

⑤ Kobayashi Ekiko,
Ein fremdes Bild fuer Freundschaft bei C.F.Weisse: „edle Wildin“ in „Freundschaft auf der Probe“. In: Transkulturalitaet in neuem Licht. (Hg.) Maeda Ryozo. Muenchen: Iudicium Verlag, 査読有, 2012, pp.297-302.
DOI: なし

⑥ 小林英起子,
「ザクセン喜劇におけるヒポコンドリーの諸相と医学」,広島大学大学院文学研究科論集,71 巻,査読無,2011, pp.15-28.
DOI: なし

⑦ 小林英起子,
「ザクセン類型喜劇における「裁き」と諷刺　―クヴィストルプの『山羊裁判』とゴットシェート夫人の『遺言状』を例に」,ドイツ語文化圏研究, 9 号, 査読有, 2011, pp.32-50.
DOI: なし

〔学会発表〕（計 8 件）

① 小林英起子,
「テオドール・ヨハン・クヴィストルプの喜劇における下僕の役柄と喜劇性をめぐって　―『牡蠣』を中心に―」, 2013 年度日本独文学会北陸支部研究発表会, 2013 年 11 月 9 日, 於：富山市パレブラン高志会館

② 小林英起子,
「宮廷喜劇俳優カロリーネ・ノイバーの演劇改革の試みと演劇綱領　―『ドイツの序幕』を中心に」, 2013 年度日本演劇学会全国大会, 2013 年 6 月 22 日, 於:共立女子大学

③ 小林英起子,
「ノイバー座の演劇改革とザクセン喜劇の受容をめぐって」, 2013 年度日本独文学会春季研究発表会, 2013 年 5 月 26 日, 於：東京外国語大学

④ 小林英起子,
「カロリーネ・ノイバーの劇『ドイツの序幕』に見る演劇改革と啓蒙精神」, 2012 年度日本独文学会中国四国支部研究発表会, 2012 年 11 月 10 日, 於: 広島大学学士会館

⑤ Kobayashi Ekiko,
Reception der deutschen Literatur in Japan./Teil II - Heilkunde der “Hypochondrie in der saechsischen Komoedie. Literaturabend im Rotary Club Dueren-Juelich, 2012年9月19日, 於: Hotel Kaiserhof, Juelich Germany.

⑥ Kobayashi Ekiko,
Personifikation in den Fabeln der Aufklaerung - Eine vergleichende Betrachtung zwischen Lessing und Richardson. In: Beitraege der Asiatischen Germanistentagung Beijing 2012, 2012年8月24日, 於:Jiuhua Resort & Convention Center, Beijing China.

⑦ Kobayashi Ekiko,
Botschaft der Komik oder Uebermittelung von Vernunft? -Zu Dienerfiguren in fruehaufklaererischen Komoedien.日本独文学会第 54 回ドイツ文化ゼミナール, 2012 年 3 月 11 日, 於:神奈川県葉山町 IPC 生産性国際交流センター

⑧ 小林英起子,
「啓蒙の寓話における擬人化　－レッシングとリチャードソンにおける描写の比較」, 日本独文学会中国四国支部研究発表会, 2011 年 11 月 5 日, 於:高知大学

〔図書〕（計　0　件）

〔その他〕
ホームページ等
www.inst.at/trans/17Nr/1-9/1-9_kobayashi17.htm

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　英起子（KOBAYASHI, Ekiko）
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60571065